

船舶事故等調査報告書

平成22年4月22日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009広第271号	
事故等種類	運航不能（機関損傷）	
発生日時	平成21年9月6日 07時45分ごろ	
発生場所	広島県廿日市市宮島南方沖 阿多田港本浦中防波堤灯台から真方位310° 1.9海里付近 (概位 北緯34° 12.9′ 東経132° 17.1′)	
事故等調査の経過	平成21年10月13日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 油送船 第二西本丸、81トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 127202、株式会社ニシモトエネルギーサプライ</p> <p>乗組員等に関する情報 機関長、三級海技士（機関）</p> <p>死傷者等 なし</p> <p>損傷 発電機用ディーゼル機関（以下「補機」という。）3番シリンダのピストンとシリンダライナに焼損</p>	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか2人が乗り組み、山口県岩国港から広島県広島港に向けて宮島南方沖を東進中、平成21年9月6日07時45分ごろ、補機が停止してAC100V系電源を喪失し、操舵機の電動油圧ポンプが停止して航行不能となった。</p> <p>本船は、タグボートにえい航されて岩国港に入港した。</p> <p>本船は、機関整備業者が点検を行った結果、補機の3番シリンダのピストン及びシリンダライナの損傷が判明し、修理された。</p>	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風力 1	
その他の事項	<p>補機は1台が設置されていた。</p> <p>補機には冷却水温度上昇警報装置が装備されていなかった。</p> <p>補機のプランジャ式冷却海水ポンプ（以下「冷却海水ポンプ」という。）がごみを嘔み込んでいた。</p> <p>補機が過熱した。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>なし</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船が宮島南方沖を東進中、補機は、冷却海水ポンプがごみを嘔み込み、冷却海水流量が低下して過熱し、3番シリンダのピストン及びシリンダライナが焼損して停止したものと考えられる。</p>
原因	本インシデントは、本船が宮島南方沖を東進中、補機の冷却海水ポンプがごみを嘔み込み、冷却海水圧力が低下して補機が過熱し、3番シリンダのピストン及びシリンダライナが焼損して停止したため、電源を喪失したことにより発生したものと考えられる。	